

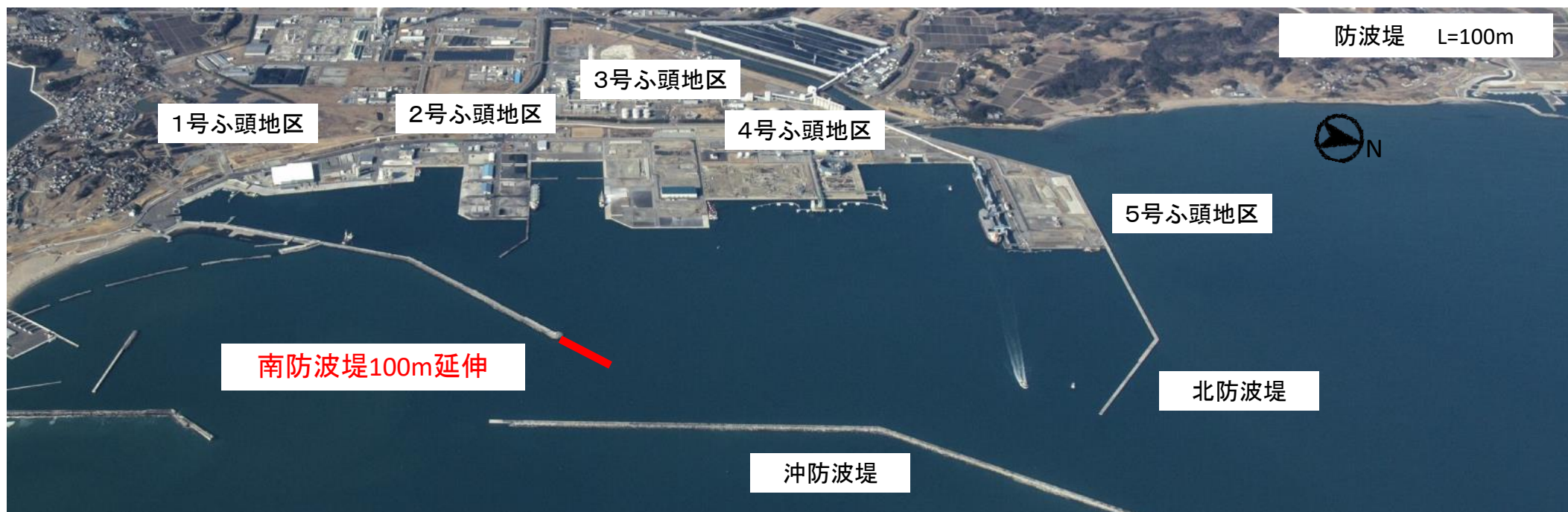
整理番号	127	事業名 〔地区名〕	交付金事業(港湾) 〔相馬市 新地町 相馬港〕	全体事業費 (百万円)	4,600	採択年度	R2 (H32)	完成目標年度*	R12 (H42)	担当部(局)課名	土木部 港湾課
------	-----	--------------	----------------------------	----------------	-------	------	-------------	---------	--------------	----------	---------

※完成目標年度は、標準的な工程を想定して設定しているが、毎年度の予算は担保されたものではなく、用地取得状況や施工上の条件変化等、不確定な要素があるため、確定したものではない。

評価対象理由	事業費を新たに予算化しようとする大規模公共事業	前回評価時の対応方針	委員会からの提言:一、付帯意見等:一、県の対応方針:一
--------	-------------------------	------------	-----------------------------

## 1 事業の概要

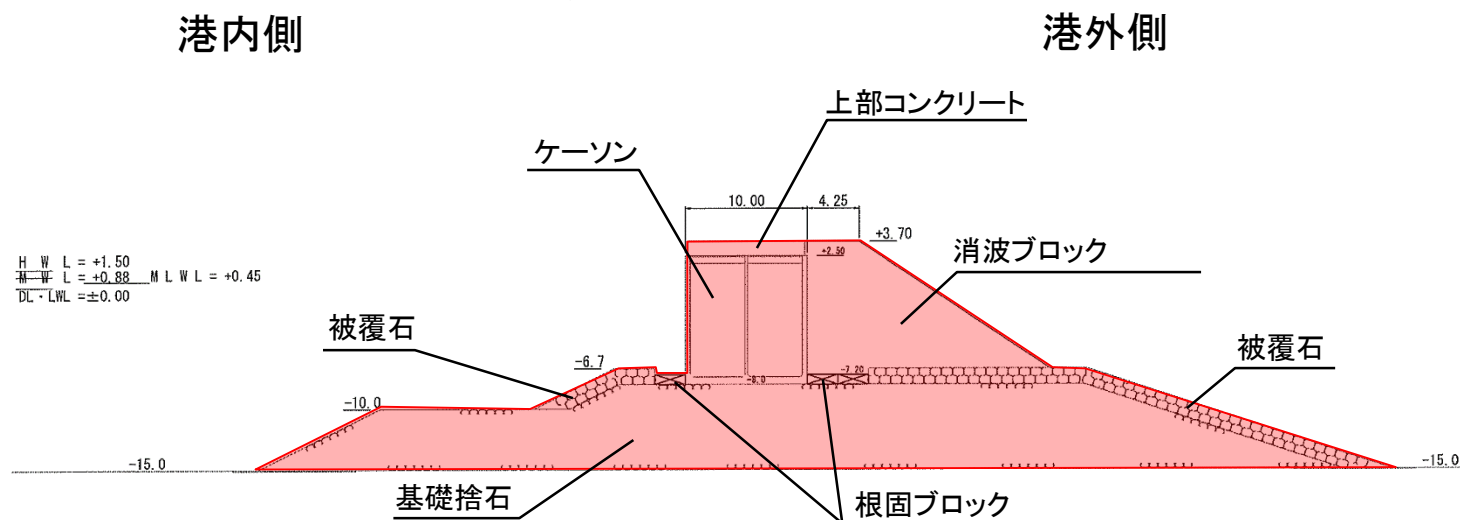
- 相馬港の一部の岸壁では、荒天時の波高が高く荷役作業の安全性を確保できず中止を余儀なくされている状態が発生していることから、港内の静穏度を向上させ船舶の効率的な荷役を可能にするため、港湾計画に基づき南防波堤を100m延伸する。



位置図



南防波堤延伸部 標準断面図



南防波堤の整備効果

<荷役の効率化>

- 港内の静穏度が向上し、荷役効率が上昇します。
- 年間を通じて97.5%以上の静穏度が確保されれば、係留施設は所期の需要を取り扱うことが可能と想定されるため、97.5%を目標とします。
- 整備効果の静穏度比較

現況	100m延伸後	整備効果
93.8%	97.6%	+3.8%

## 2 事業の進捗状況等

評価基準 A:特に問題なし、B:問題あるが解決の見込みあり、C:問題があり解決が難しい

(百万円)

全体事業費

4,600

### (1)現状及び見通し

- 相馬港では、近年、港内及び背後地域にエネルギー関係企業や製造業関係企業の立地が進み、取扱貨物量は平成29年の約651万トンに対し、平成30年は約698万トンと過去最高を記録するなど、港湾の利活用が進んでいる。
- 今後の相馬福島道路の全線開通によるアクセス向上などにより、相馬港の利便性が高まることから、更なる貨物量の増加が期待できる。
- 相馬港では、現在、荒天時に一部の岸壁において波高が高く荷役作業に危険が伴い船舶の荷役作業の中止を余儀なくされている。
- 船舶の効率的な荷役を可能にするため、港湾計画に基づき、南防波堤を100m延伸し、港内の静穏度の向上が図れる。

### (2)期待される効果

- 相馬港内の静穏度が向上することにより、荷役作業時の安全性の向上が期待される。
- 船舶の効率的な荷役が可能となるため、地域経済の活性化に寄与することが期待される。

### (3)事業を巡る社会経済情勢、地元住民等の意向、国等との役割分担

- 相馬港周辺では、新たな企業の立地が進んでおり、また、今後の相馬福島道路の全線開通に伴う貨物量の増加が期待されることから、港内の静穏度を向上させ、船舶の効率的な荷役を可能とするよう、事業の早期着手が望まれている。
- 当該事業は、相双地域の地域経済活動の支援への一助となる。

### (4)評価指標の状況

評価指標	現況 (R2)	完成時 (R12)	備考
静穏度	93.8%	97.6%	

### (5)費用対効果の状況

$$B/C = \frac{40.0}{31.4} = 1.27$$

- [B]港湾事業における総便益(輸送費用削減便益)
- [C]港湾事業に要する総費用(防波堤延伸に要する事業費の合計)

### (6)コスト削減の取組

- ケーソンの中詰材に港内で浚渫した土砂の利用を検討するなど、コスト削減に向けて可能な取組を積極的に実施する。

## 3 総合評価

### (1) 県の対応方針案

### (2) 理由

事業着手

相馬港は、近年、港内及び背後地域にエネルギー関係企業や製造業関係企業の立地が進み、平成30年の取扱貨物量が過去最高を記録するなど利活用が進んでいる。また、今後の相馬福島道路の全線開通によるアクセス向上などにより、貨物量の増加が期待される。これらの状況に対応するため、港内の静穏度を向上させ、船舶の効率的な荷役を可能にする必要があり、早期に港湾計画に基づく当該防波堤延伸事業に着手する必要がある。